

ストーリーズ
STORIES
わたしたち
作品について学芸員が知っていること

わたしたち
STORIES ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること

2021（令和3）年4月6日（火）～5月16日（日）

概要

この春開館 35 周年を迎える静岡県立美術館のコレクションを中心に、日本画、日本洋画、現代美術の多彩な作品を取り上げ、所蔵館の学芸員ならではの視点で、普段の展覧会ではなかなか踏み込んでご紹介することができないコレクションにまつわるストーリーを語ります。出品点数は、外部からの借用作品も併せ、約90点。

この展覧会の見どころ

◎実は、コレクションは奥が深い！

美術館のコレクション展は、どちらかという企画展の陰に隠れたひかえめな存在である、というのが一般的な認識ではないでしょうか。しかし実は、コレクションの鑑賞こそが美術館を訪問する醍醐味であり、コレクションに会うためにわざわざ美術館に足を運ぶことが楽しみになりうるということをご存知でしょうか。その理由は、コレクションこそ、その美術館がその美術館である所以、個性、美術館のアイデンティティーだからです。作品がコレクションされると、美術館ではその作品に関する研究、保管、展示活動を通して様々な人間や情報を集め、また外からも自ずと集まってきます。コレクションを媒介にして人が動き、情報や資料が飛び交い、他にはない記録や記憶が蓄積されていきます。そのような収蔵作品にまつわる雑多な情報を精査し、コレクションに精通した所蔵館の学芸員がキュレーション（特定のテーマに沿って編集し意味や価値を付与すること）をして展示で紹介するわけですから、美術館の中で働く者の立場からすれば、「コレクションが断然おもしろいですよ」と声を大にして言いたくなる理由を、ご理解いただけるのではないのでしょうか。

◎美術館に蓄積されてきた研究や歴史の厚み

学芸員はコレクションをデータ上だけでなく、物として管理することを任されています。作品に最も近いところに身を置き、状態を管理する役割を担い、必要に応じて調査のために直接手に取ることや、入っていた箱、裏側を見ることもあります。また、購入を通じて古美術商やギャラリーとの情報交換や交渉を行うこともあれば、寄贈の申し出を受けた時には、作家、作家の遺族、コレクターと連絡を取り合うこともあります。コレクションについて日ごろから研究をし、ふさわしいテーマで展覧会の企画を行い、反対に他の美術館の展覧会に貸し出す際には、依頼主の施設が展示環境として安全かどうかの確認や、時にはクーリエとして輸送・展示作業に立ち会うこともあります。このように多方向からコレクションに関わっている学芸員ですが、在任期間を終えると自らが担ってきた役割を同僚や次の世代に引き継ぎます。そうやって学芸員が入れ替わりながら、積み重なり伝えられていく学芸員の経験や記憶の蓄積が、美術館の大切な資産であり、美術館の歴史の一部を作っています。この展覧会では、こうした美術館に蓄積されてきた研究や歴史の厚みの一端をご紹介できればと考えています。

◎^{わたしたち}学芸員とは誰か？

この展覧会では制作年代、技法の異なる様々なジャンルの作品を混ぜて紹介します。ジャンルごとに作品に対する考え方や、取り扱いの作法の違いがあり、担当する学芸員は異なりますが、ジャンルを混ぜてご紹介することにより、17世紀以降の美術作品を収集する当館らしさを伝えられると考えたからです。タイトルの「学芸員」にルビを振って「わたしたち」と複数形で表記しているのは、複数ジャンルの複数の学芸員を指すとともに、これまでに在籍していた多くの学芸員たちが残していった、作品に関する記録や彼らの声を参照しているからです。

◎コロナ禍の中で

コロナ禍で以前と比べて行動範囲が狭くなり、遠くまで足を伸ばし、まだ見たことのない作品に会いに行くことが難しい生活が日常になっています。それ自体残念なことではありますが、この状況がかえって、身近にある美術館で、馴染みのある作品、記憶に残る作品と旧交を深めたり、以前にも見たことのある作品を別の角度から、あるいは今現在の自分の感性で改めて見直してみたりするチャンスを与えてくれているようにも思います。あなたに会うことを待っている作品が、近い場所にきっとあるはずですよ。

展示の構成

展示は 6 章から構成され、各章ごとにテーマに沿って作家・作品別に大小さまざまなストーリーを語っていきます。

1 章 『名品』の軌跡

当館コレクションの中でも近年人気と話題の的となっている、伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》と草間彌生《無題 (No. White A.Z.)》を中心に取り上げ、現在に至るまでの作品の来歴や評価の変遷について確認し、「名品」として知られるようになった 2 点の軌跡をたどります。

2 章 徳川ゆかりの画家、近代を生きる

江戸から明治への大変革期に、幕臣から一転して、画家として身を立てた 2 人の画家、川村清雄と小林清親を紹介します。時代の転換期に立ち合い、乗り越えていったそれぞれの画家の、この人でしか作り得ない絵画世界を味わっていただければと思います。

3 章 二人の画家 静岡への想い 和田英作、曾宮一念

長らく静岡県に居住し、東京美術学校（現在の東京藝術大学）で師弟関係にあった 2 人の画家、和田英作と曾宮一念を取り上げます。山を愛した彼らがそれぞれに選んだモチーフや、静岡との関係について語ります。

4 章 語り継ぎたいエピソード

ここでは、学芸員が作品の収蔵を通じて出会った作家や遺族、コレクター、画商などから伝え聞いた話や、文献などから調査し明らかになった事について語ります。ご紹介するエピソードは、いずれも文字にして残さなければ忘れ去られてしまう貴重な話ばかりです。作品には多くの物語があることを、お伝えできればと思います。

5章 掛井五郎と静岡

彫刻家、掛井五郎の作品《蝶》は、開館準備室時代の1985年に当館コレクションに加わり、プロムナードの一角に設置されて以来、この場所を行き交う人々に愛されている作品です。この作品を入口にして、彫刻家の掛井五郎が生まれ育ち青年期まで過ごした静岡、インスピレーションの源となった母と創作との関わりを、本展覧会のために借用した26点の作品とともに紹介します。

6章 石田徹也とその足跡

焼津市生まれの石田徹也の作品が、当館のコレクションに加わった経緯とその後の足跡を辿ります。日本特有の社会状況の中で生きる人間を描き出しているかのように見える石田の作品が、近年海外でも共感を呼び、求められている状況についてもご紹介します。

基本情報

展覧会名 ストーリーズ～作品について^{わたしたち}学芸員が知っていること

会 期 2021（令和3）年4月6日（火）～5月16日（日）

会 場 静岡県立美術館 〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2

- ・JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分。
- ・JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分、または静鉄バスで約30分。

交通案内

- ・JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分、または静鉄バスで約20分。
- ・静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分、または静鉄バスで約3分。
- ・東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分。日本平久能山スマートICから車で約15分
または新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分。

開館時間 午前10時～午後5時30分（展示室への入室は午後5時まで）

休館日 毎週月曜日（ただし、5月3日[月・祝]は開館）

一般1,000円（800円）、70歳以上500円（400円）、大学生以下は無料。

観覧料 ※（ ）内は前売及び20名以上の団体料金 ※ロダン館・収蔵品展も併せてご覧いただけます。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。

主催 静岡県立美術館

協力 一般財団法人掛井五郎財団

会期中イベント

講演会「名品を手に入れる 静岡県立美術館所蔵 草間彌生《無題 (No. White A.Z.)》を中心に」

日時：4月11日（日）14：00～15：30（開場13：30）

講師：石坂泰章氏（サザビーズジャパン代表取締役会長兼社長）

会場：当館 講堂

申込不要／無料／先着120名まで

館長美術講座「作品について^{わたし}館長が知っていること」

日時：5月9日（日）14：00～15：30（開場13：30）

講師：木下 直之（当館館長）

会場：当館 講堂

申込不要／無料／先着120名まで

本展覧会担当学芸員による連続美術講座

「石田徹也の作品は海外でどのように紹介されたか」

日時：4月29日（木・祝）14：00～15：00（開場13：30）

講師：川谷 承子（当館上席学芸員）

会場：当館 講座室

申込不要／無料／先着25名まで

「和田英作と曾宮一念 二つの絶筆」

日時：5月2日（日）14：00～15：00（開場13：30）

講師：泰井 良（当館上席学芸員）

会場：当館 講座室

申込不要／無料／先着25名まで

「野島青茲 《塑像》 — 3人の作家をめぐる物語」

日時：5月8日（土）14：00～15：00（開場13：30）

講師：石上 充代（当館上席学芸員）

会場：当館 講座室

申込不要／無料／先着25名まで

【このプレスリリースに関する問い合わせ先】

静岡県立美術館 担当：学芸課 川谷 / 総務課 加藤

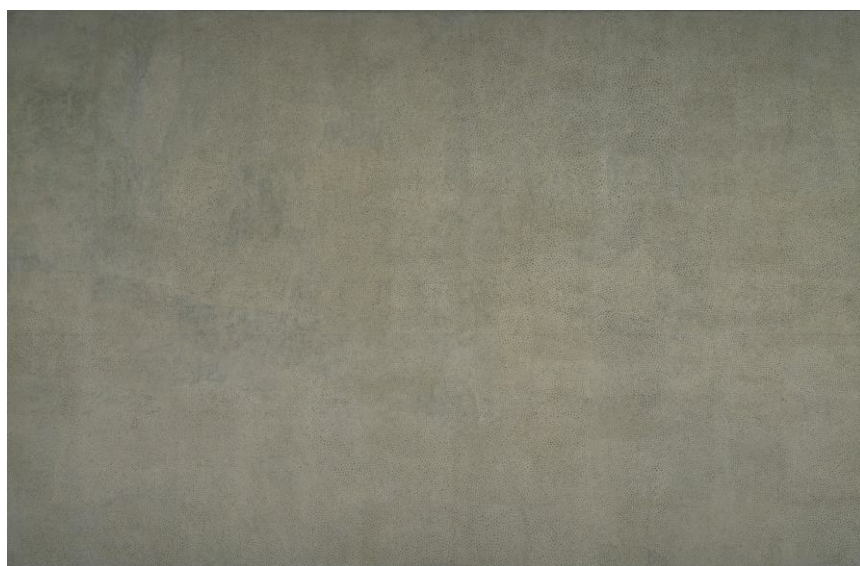
住所 〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2

TEL 054-263-5857 FAX 054-263-5742

E-Mail webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp



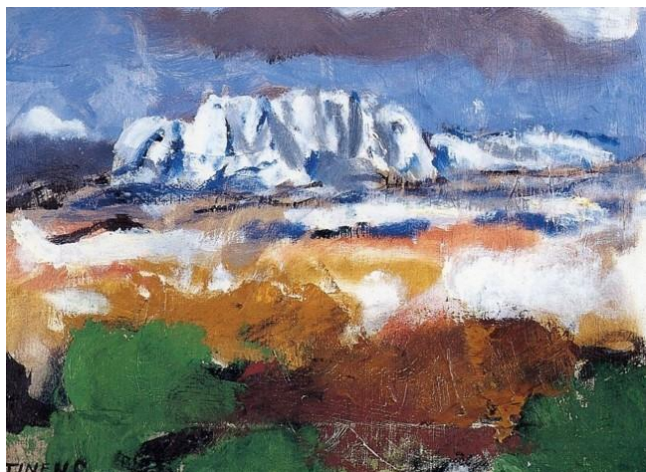
1. 伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》より右隻 18世紀後半 静岡県立美術館蔵



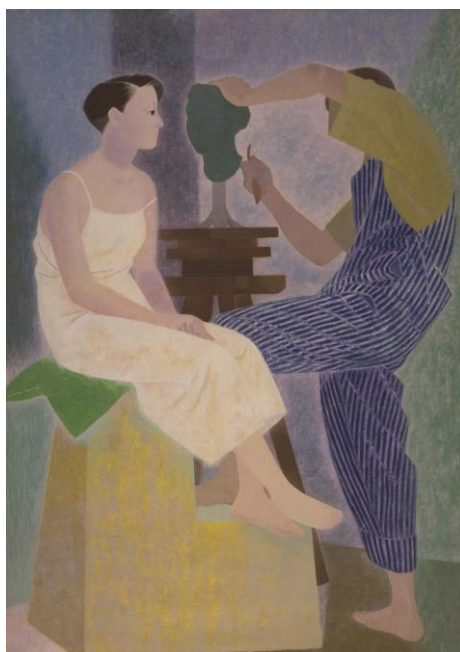
2. 草間彌生《無題 (No.White A.Z.)》 1959 静岡県立美術館蔵 ©YAYOI KUSAMA



3. 川村清雄《梅に親子雀》1912-1923 静岡県立美術館蔵



4. 曾宮一念《毛無山》1970 個人藏



5. 野島青茲《塑像》1952 静岡県立美術館蔵



6. 伊藤隆史《現代人》1960 静岡県立美術館蔵



7. 掛井五郎《蝶》1982-86 静岡県立美術館蔵



8. 石田徹也《社長の傘の下》1996 静岡県立美術館蔵

わたしたち
STORIES ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること

宛先：静岡県立美術館 (広報担当) 学芸課 川谷、総務課 加藤 宛

E-mail : webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記メールアドレス宛に本票を添付してお申し込みください。

【画像ご使用に際してのお願い】

- *画像データはメールにてお送りします。
- *画像は本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- *使用後のデータは破棄していただきますようお願いいたします。
- *画像への文字載せ、トリミングはできません。
- *クレジットを必ず明記してください。
- *基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- *掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。

貴社名： _____ 媒体名： _____

ご担当者名： _____ 発行・放送予定日： _____

TEL： _____ 発行部数： _____

FAX： _____ 定価： _____

E-mail： _____ 掲載予定コーナー名等： _____

連絡欄： _____

- ◎ 本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券
(5組10名様) を読者プレゼント用に提供いたします。
ご希望の方は下記にご記入ください。
読者プレゼント用招待券を 【 希望する ・ しない 】

【チケット送付先】

ご住所：〒

<広報用画像に関する問い合わせ先>

静岡県立美術館

学芸課:054-263-5857

広報担当：(学芸課)川谷、(総務課)加藤